

活動報告

団体名	aichikara
活動名	令和元年台風 19 号の被災者の生活再建支援のためのボランティアバス事業
活動期間	2019/10/17 ~ 2019/12/14
活動の成果	<p>成果は一つに、災害 VC による支援活動を含む既存の支援制度では、支援が行き届きにくい個別ニーズに対し迅速かつ継続的に支援を届けられたことが挙がる。支援が行き届きにくい地域や人々に対し、ピンポイントで支援を届けることができた。支援の「数」ではなく、個別ニーズに寄り添う支援の「質」を重視した支援活動が展開できた。二つ目に、「若い世代」が被災地と繋がることで学生らに変容がもたらされ、これにより災害や被災地への関心が高まり、風化防止に寄与できたことが挙がる。災害は時間の経過に伴い風化する。支援者側は、いかに風化を遅め被災地への関心を継続させられるか、その長期的な展望を持つことが必要である。この点において、至学館大学と連携し活動を展開できた意義は大変大きかった。学生の受け入れに際しては、事前オリエンテーションの中で、被災地の状況、活動内容、災害支援に臨む心構えを学ぶ機会を設け、現地では当団体役職員がコーディネートに努め、折に触れ学生の学びを深めた。初めは災害(支援)を他人事と捉える学生も見受けられたが、活動の中で多くを感じ学び取った様子が活動後のレポートからうかがえ「当事者性の芽生え」を実感した。本活動の経験が学生の変容を促し、これが被災地・者への関心の継続に繋がるものであると考える。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>この度、令和元年台風第 19 号の災害における被災地支援活動としてボランティアバスを企画・運行することで、被災された皆様の 1 日でも早い復旧・復興のために活動を行うことができました。これもひとえに、皆様の温かいご支援の賜物であると心より感謝しております。また、今回の被災地支援活動を通じて、参加した多くの学生達からは、他人事として捉えていた災害や被災地を「もし自分が被災したら」と、自分事として捉え直して考える姿が見られました。実際に、参加した学生達は次のような感想を寄せています。「災害大国と言われる日本でこういった災害はいつ起こるか分からないし他人事じゃないことが分かった。」「人は忘れる生き物だが、忘れられることがないように今回学んだことを友達や家族に伝えていきたい」。これらの感想からも、学生達の中に当事者意識が芽生えたのだと感じています。この経験が、多くの学生達の被災地への関心を継続させ、復旧・復興を加速させる力になるのだと思います。これからも、当法人は被災地に寄り添い、皆様方と共に活動を行えるよう、精一杯努力してまいります。重ねて、赤い羽根共同募金への寄付を通じてのご支援、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。</p>

(活動のようす)

